

ウィークリー・アウトルック

9 月の米利下げは 0.25%か、0.50%か

【今週のポイント】

- ・経済指標の発表を受けた米英の金融政策見通しの変化
- ・RBNZ は利下げするかどうか、RBNZ の政策金利見通しはどう変化するか

先週(8/5-)、株価が暴落して急激なリスクオフが起きた 5 日に米ドル/円は 141 円台まで下落しました。その後はリスクオフが徐々に弱まり、米ドル/円は 146 円台半ばまで戻して週を終えました。6 日以降は資源新興国通貨が比較的堅調で、円の他に英ポンドやユーロも軟調でした。

今週(8/12-)、為替市場は先週の後半に続いて落ち着きをみせることができるか。夏期休暇期間中ということもあって、材料次第では再びリスクオフが強まらないとも限りません。

今週の主要経済指標・イベント

			当社予想	市場予想	前回値
8月12日		【日】振替休日(山の日)			
8月13日	10:30	【豪】賃金コスト指数 前年比(4-6月期)	実績4.1%		4.1%
	15:00	【英】週平均賃金 前年比(6月の3カ月平均)	4.8%	4.6%	5.7%
		【英】ILO失業率(6月の3カ月平均)	4.5%	4.5%	4.4%
	21:30	【米】PPI 前年比(7月)	2.4%	2.3%	2.6%
		【米】コアPPI 前年比(7月)	2.7%	2.6%	3.0%
8月14日	11:00	【NZ】RBNZ政策金利	5.50%	5.50%	5.50%
	12:00	【NZ】オアRBNZ総裁の記者会見			
	15:00	【英】CPI 前年比(7月)	2.3%	2.3%	2.0%
	21:30	【米】CPI 前年比(7月)	3.0%	3.0%	3.0%
		【米】コアCPI 前年比(7月)	3.2%	3.2%	3.3%
8月15日	8:50	【日】GDP速報値 前期比年率(4-6月期)	2.5%	2.3%	-2.9%
	10:30	【豪】失業率(7月)	4.1%	4.1%	4.1%
		【豪】雇用者数 前月比(7月)	1.50万人	2.00万人	5.02万人
	15:00	【英】GDP速報値 前期比(4-6月期)	0.5%	0.6%	0.7%
	21:30	【米】小売売上高 前月比(7月)	0.5%	0.4%	0.0%
		【米】小売売上高(除自動車) 前月比(7月)	0.2%	0.1%	0.4%
	21:30	【米】NY連銀製造業景気指数(8月)	-4.0	-6.0	-6.6
8月16日	23:00	【米】フィラデルフィア連銀製造業景気指数(8月)	7.0	5.0	13.9
8月16日	23:00	【米】ミシガン大学消費者信頼感指数・速報値(8月)	67.0	66.9	66.4

市場予想はBloomberg、8月13日9:00現在。発表日時は日本時間。

今週は大きなイベントは予定されていないので、主要な経済指標を丹念にチェックして、景気や金融政策の見通しに変化が生じるかに要注目でしょう。

米経済指標では、PPI(生産者物価指数)、CPI(消費者物価指数)、小売売上高、鉱工業生産(いずれも7月分)、NY連銀とフィラデルフィア連銀の製造業景況指数(8月分)、新規失業保険申請件数(前週分)など。米アトランタ連銀の GDPNow(短期予測モデル)によれば、7-9月期 GDP は前期比年率 2.9%と堅調を予想。もっとも、同期間の経済データは出始めたばかり。一連の経済指標を受けて予測がどう変化するか。

9月 FOMC での利下げが確実視されるものの、下げ幅については 0.25%か、0.50%か見方が分かれるところ。一連の経済指標が弱ければ、後者の可能性が高まるかもしれません。ただ、それは改めて景況感の悪化を伴うため、株価にとってはマイナスとなりそう。

日本では 4-6 月期 GDP に注目。1-3 月期が前期比年率-2.9%と大幅なマイナスだっただけに、どこまで盛り返すか。逆に同 3.4%と高めだったデフレーターは落ち着きをみせるか。

英国では、6月の賃金や失業率などの雇用関連、7月 CPI、4-6 月期 GDP など。いずれもやや強めの数字が予想されているようです。12日時点の OIS(翌日物金利スワップ)に基づけば、(8月に続く)年内 2回の追加利下げが 8割近い確率で予想されています。＜西田＞

* * * * *

今週は、14日に RBNZ(NZ 中銀)の政策会合が開かれます。会合における最大の注目点は、利下げが行われるかどうか。会合の結果に NZドル/円や NZドル/米ドル、豪ドル/NZドルが反応しそうです(RBNZ 会合については後述)。

米ドル/カナダドルや豪ドル/米ドルについては、米国の経済指標の結果を受けて市場の米 FRB の金融政策見通しがどのように変化するかがカギを握りそうです。FRB の利下げ観測が後退する場合、米ドル/カナダドルは堅調に推移し、一方で豪ドル/米ドルは軟調に推移すると考えられます。

中東情勢には注意が必要かもしれません。中東情勢が一段と緊迫化する場合、リスクオフ(リスク回避)の動きが強まるとともに、豪ドル/円やカナダドル/円などのクロス円には下落圧力が加わる可能性があります。＜八代＞

今週の注目通貨ペア①: <米ドル/円 予想レンジ: 141.500 円～151.500 円>

12 日時点の OIS(翌日物金利スワップ)に基づけば、市場は 9 月 18 日の FOMC での利下げを確実視しています。そして、利下げ幅が 0.25%でなく 0.50%となる確率が 4 割近く織り込まれています。

今週の CPI や小売売上高など米経済指標の発表を受けて、FRB の金融政策見通しはどうか。7 月雇用統計発表後の米景気に対する市場の懸念はやや行き過ぎの感があります。経済指標を受けて米景気に対する懸念が後退すれば、0.50%利下げの確率が低下して米ドル/円は比較的堅調に推移しそうです。逆に、景況感が悪化するようであれば、0.50%利下げの確率が高まって、米ドル/円は軟調になりそうです。仮に、景況感の悪化から株価が大きく下落するなら、リスクオフが強まって米ドル/円に更なる下押し圧力が加わるかもしれません。

他方、日本の 4-6 月期 GDP は大幅マイナスだった前期から反発が予想されます。ただ、7 日に日銀の内田副総裁が金融市場の混乱を受けて「当面、現在の水準で金融緩和をしっかりと続ける必要がある」と述べたので、追加利上げ観測は高まりにくいでしょう。12 日時点の OIS に基づけば、市場が織り込む年内の追加利上げ確率は 3 割弱です。〈西田〉

今週の注目通貨ペア②: <英ポンド/米ドル 予想レンジ: 1.25000 ドル～1.28500 ドル>

英国の雇用関連指標や GDP を受けて、BOE(英中銀)の金融政策見通しは変化するか。BOE は 8 月 1 日に 0.25%の利下げを実施しました。12 日時点の OIS に基づけば、次回 9 月 19 日の MPC(金融政策委員会)での追加利下げを市場は 4 割近く織り込んでいます。

英ポンド/米ドルは 7 月中旬に約 1 年ぶりの 1.30000 ドルをつけた後、BOE の利下げや株価下落を受けて 8 月上旬にかけて軟化しましたが、足もとで小幅に反発しています。BOE の利下げ見通しが後退するならば、そして/あるいは米 FRB の利下げ観測が高まるようならば、英ポンド/米ドルには上昇余地がありそうです。〈西田〉

今週の注目通貨ペア③: <豪ドル/NZ ドル 予想レンジ: 1.07000NZ ドル～1.11000NZ ドル>

RBNZ(NZ 中銀)は 14 日に政策会合を開きます。その結果が今後の豪ドル/NZ ドルの動向に影響を与えそうです。

RBNZ 会合については、市場の見方は“政策金利は据え置かれる”と“0.25%の利下げが行われる”とで分かれています。そのため、政策金利がいずれの結果になっても、NZ ドルが反応しそう。据え置きの場合、初期反応は NZ ドルが堅調に推移して豪ドル/NZ ドルは下落しそうです。

RBNZ が四半期に一度公表する「政策金利見通し」にも注目です。前回 5 月には、政策金利は“25 年後半”に現行水準を下回り(利下げ開始時期を示唆)、25 年 10-12 月期には四半期平均 5.14%、26 年 10-12 月期には同 3.70%へと低下するとの見通しが示されました。今回の会合で政策金利が据え置かれたとしても、RBNZ の政策金利見通しが 5 月時点から大幅に下方修正されれば、豪ドル/NZ ドルの下落は長続きしない可能性もあります。〈八代〉

今週の注目通貨ペア④: <米ドル/カナダドル 予想レンジ: 1.36000 カナダドル~1.39000 カナダドル>

今週は、カナダの6月卸売売上高(15日)や7月住宅着工件数(16日)などが発表されるものの、材料としては力不足かもしれません。米ドル/カナダドルは、CPI(消費者物価指数)など米国の経済指標といった米ドル側の材料に影響を受けやすいと考えられます。米経済指標の結果を受けて9月の米FOMCでの0.50%の利下げ観測が後退する場合、米ドルが全般的に堅調に推移して、米ドル/カナダドルには上昇圧力が加わりそうです。

原油価格の動向も材料になるかもしれません。原油価格の代表的な指標である米WTI原油先物は5日に一時71ドル台へと下落したものの、その後持ち直して12日には79ドル台をつける場面がありました。原油価格がさらに上昇を続ける場合、米ドル/カナダドルの上値を抑える要因になる可能性があります。<八代>

<執筆者>

執筆者プロフィール



西田 明弘（にしだ あきひろ）

チーフエコノミスト

日興リサーチセンター、米ブルッキングス研究所、三菱UFJモルガンスタンレー証券などを経て、2012年マネースクウェア・ジャパン（現マネースクエア）入社。

米国を中心とした各国のマクロ経済・金融政策・政治動向の分析に携わる。

「アナリスト、ストラテジスト、エコノミスト、研究員と呼び名は変われども、30年以上一貫してリサーチ業務を行ってきました。長い経験を通じて学んだことは、金融市場では何が起きても不思議ではないということ。その経験を少しでも皆さんと共有したいと思います。」

執筆者プロフィール



八代 和也（やしろ かずや）

シニアアナリスト

2001年ひまわり証券入社後、為替関連の市況ニュースの配信、レポートの執筆などFX業務に携わる。2011年、マネースクウェア・ジャパン（現マネースクエア）に入社。

豪ドル、NZドル、カナダドル、トルコリラ、南アフリカランド、メキシコペソを中心に分析し、レポート執筆のほか、M2TV出演、セミナー講師を務めている。

【プロフィール】 広島県出身。

【趣味】 野球・サッカー観戦。

【一言】 より分かりやすくタイムリーなレポートを心掛けています。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できるとされる各種情報源から入手したのですが、当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもあります。お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引および取引所株価指数証拠金取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・取引所株価指数証拠金取引における委託手数料は注文が成立した日の取引終了後の値洗い処理終了時に証拠金預託額より、新規および決済取引のそれぞれに徴収いたします。手数料額は、通常 1 枚あたり片道 303 円(税込)、NY ダウリセット付証拠金取引および NASDAQ100 リセット付証拠金取引は 1 枚あたり片道 33 円(税込)です(ただし、建玉整理における委託手数料は無料です)。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差(スプレッド)があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率(為替リスク想定比率)を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率(為替リスク想定比率)は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。取引所株価指数証拠金取引に必要な証拠金額は、商品ごとに当社が定める 1 枚あたりの必要証拠金の額に建玉数量を乗じる一律方式により計算されますが、1 枚あたりの必要証拠金額は変動いたします。

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
